

# 令和4年度学校評価シート

兵庫県立生野高等学校

## 1 学校教育目標

本校の綱領「自己を知り、自己に培い、社会を知り、社会を愛せ」に基づいて、自ら目標を持って学ぶ力を養うとともに、知・徳・体の調和した、こころ豊かで自立した人間の育成を目指す。

## 2 重点目標

ア 第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」の基本理念「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」の実践に向け、生徒の学びを支える仕組みの確立を図りながら未来への道を切り拓く力を育む。

イ 文部科学省の令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の指定を受け、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。平成30年度より導入した「観光・グローバル類型」(全県から生徒募集)と「地域探究類型」では、生野銀山や竹田城など観光資源豊かな朝来市にある本校から、グローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案ができる人材を育成する。

ウ 「自ら考え、未来を切り拓いていくことができる生徒」「地域を愛し、地域の担い手となる生徒」「グローバルな視点を持ち、自らの言葉で語ることが出来る生徒」を育成する。

## 4 学校関係者評価

①自転車で行く子どもたち、あいさつ気持ち良いです。近所の方も喜んでおられます。時間を守る習慣を指導されていることは大変良い。社会人になる前が大切。あいさつがきちんとできる事は社会に出ても基本となる事なので今後もあいさつ運動の取組は続けて欲しい。時間やルールを守ることも大切なので日常的な指導から身につくので良い。訪問させていただいた際、生徒たちからあいさつしてくれていたのが指導されているのだなと感じました。コロナ禍によるマスク着用のなかでも、しっかりと挨拶ができており、登下校の列なども、マナーを守られていた。

②運動会楽しそうでした。コロナで大変でしたが、これも思い出のひとつになれば・・・地域の現状や課題の解決に向けて探究することは大変良い。地方の強さを身につけること。部活動はどうしても少人数の活動になり、活気には欠けるが楽しんで活動できる雰囲気作りも必要。探究活動で積極的に活動する生徒と、関心が持てず苦戦する生徒との差を感じる。目的を持つ事・自主的に活動するまでの「考える」時間の中で多様なアプローチがきっかけにもなると思う。将来やりたいことが決まっていれば自然と自ら学ぶと思うので、まずはやりたいことを見つけてもらえればと思います。長続きせず部活動を退部する生徒が多いことは、非常に残念なことです。小規模校として練習やチーム編成などが難しい状況は理解できますが、近隣の学校(中高)と連携協力などで可能性を少しでも広げてほしい。

③相談できる友を持つこと。他の人のことを考えて欲しい。人権は世界の共通した価値観・課題なので、さらに学習を深めること。SNS等は専門的な方の講演会が定期的に拝聴できれば良い。人権については先生方も含め、個々の価値観の違いもあるので、意見交換をして学んでいくのが良い。やさしさ、思いやり、謙虚さだと思いますので、そういう指導をしてもらえればと思います。Z世代として、ネットやSNS上の人権配慮は重要な課題であり、継続的に取り組まれない。

④家庭学習に課題がありそうだが、様々なアプリを活用するなど工夫された。スタディサブリの利便性をもっと生徒や保護者に伝達した方が良い。全生徒が自主学習の意識を高められるよう改めて指導の必要性を感じる。習慣にするためには意識が必要なので、まずは意識させるように指導してもらえればと思います。タブレットを積極的に使うなど、ICT社会に対応した生徒の学習習慣の育成に努めた。

⑤少しでも希望通りになるように、相談に時間を使用してください。キャリア教育を充実させ、最適な進路を選択できるよう指導を。将来に向けてのビジョンが生徒・保護者も含めて想定しづらい場合の対応を多様化できれば良い。ゆめいくの活動を通して得ることが多いのは良いが、活動が苦手な場合の寄り添った指導の対策も必要。進学だけが進路ではないので幅広く生徒たちと話してもらえればと思います。指定校推薦枠が多い恵まれた環境を活かして、生徒の進路希望にできるだけ沿うよう尽力された。

⑥R4年評価が上がっています。努力ですね、頑張ってください。ICTの取組は当然ながら、工夫して効果を上げるよう取り組まれない。ICT導入は今後もっと必須になってくるので良い取組だと思う。反面、想像力の低下に繋がらないよう工夫も必要。読書量・手書きの減少、セキュリティの重要性の対策も必要。何をどうすれば学校・生徒たちがより良くなるのか、常に考える人が増えれば相乗効果が先生たちも素晴らしい人材になると考えます。多忙な中で各種研修を実施され、教職員のスキルアップに努められた。

⑦地域の方も喜んでおられます。ケーキやたくさん話をしてくれて「うれしかった」と聞いている。小規模校としては地域の協力を得ることは非常に大切で、積極的に地域に入り込み、連携すること。地域の行事に積極的に参加することで、学校も地域もお互いに活性化されるので、理解と協力を深めていけたら良い。家庭連絡や情報共有はある程度できているようだが、保護者との意見交換ができる機会が持てたら良い。なるべく外部の会社や団体と繋がって欲しいと思います。小中連携による移動博物館「ゆめはく」の取組は、年代や学校の枠組みを超えた生野地域ならではの取組であり、高く評価できる。今後も同様の取り組みを継続された。

⑧美しい学校は良いですね。県・国のメンテも必要だと思います。物理的な校舎のメンテナンスは安全のため速やかに改善すること。いじめほどの学校にもあり得るものとして取り組むこと。トイレ工事等環境改善が実施されるのはとても良い。防災防犯への取組は個々の意識をもっと高められたらスキルの上になる。いじめ等の問題は小規模校の利点を生かし学校全体で状況把握し解決策を考えられたい。食での安心・安全も学んでもらえればと思います。コロナウイルス感染症の対策をしっかりと取って、学級閉鎖や学年閉鎖などを行うことなく、安心安全な学校運営に努力された。

⑨夜遅くまで電気がついて、心苦し思っていました。休めるよう、みなさんで頑張ってください。職員間の連携により、ストレスなく働くことができる環境が良い取組である。コロナ禍が和らぎ、以前のように行事を行いやすくなるので時間の使い方が重要となり、対策が必要。コミュニケーションが取りやすい職場は作業効率の向上や離職・ミスの防止にも繋がるので、雰囲気の良い職場づくりを続けて欲しい。いろいろなルールに縛られ、やりにくい事も多々あると思います。まずはやりがい、モチベーションを生徒に向けてもらえればと思います。地域の人材を上手に活用して、教職員の働き方改革を進めてほしい。

## 3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	R4	R3	R2	学校の取り組み状況・改善の方策
①基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的生活習慣の確立	4.2	3.7	4.0	・朝の立ち番やPTAあいさつ運動など、積極的に生徒に声をかけ、あいさつを推進する取組ができている。・春と秋に実施した、交通立ち番で、通学時のマナー指導を行った。・時間を守る習慣を徹底して指導することができ、生徒の良い習慣となっている。・生徒の登下校の様子や、日常の挨拶の様子から、基本的生活習慣が確立されているように思われる。
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	・目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	4.1	3.9	3.9	・探究活動では、地域の課題解決に向けて、生徒の力で実現可能なことを考え、実践活動を行った。パンフレットや図鑑、スタンプラリーなど、しっかりと成果を残すことのできた活動もあった。・探究活動については地域と連携をとり、とてもよい活動ができていた。外部コンテストにも出場するなど、学校外での活動もできていた。・総合的な探究の時間では、地域との連携を多く持ち、学年の生徒を地域で活動させる機会を多く持つことができた。・総合的な探究の時間での活動を通して、地域の現状や課題の解決に向けて探究する姿勢が身につけている生徒が多い。
	・課題解決型の学び、探究活動の推進	4.4	4.0	4.3	・生徒自身の人生の目標を立て、目標達成に向けた活動(検定の取得や学習計画)につなげていけるよう、引き続きの指導が必要だと思う。・生徒会が中心となって行事等に取り組むことはできている。しかし、その反面大半の生徒は自ら動くことが苦手なのか、受動的な活動となっている印象である。・学校行事ごとにクラスで目標を設定し、一致団結して行事に取り組んだ。
	・部活動の活性化	3.2	2.9	3.1	・部活動では、人数不足を助っ人などで補いながら大会に出場することができた。・小人数の中で、勉強・クラブ・ゆめいく発表何に優先するのが明確ではない。・部活動については、部員数が少ない中でも協力しながら練習や試合に参加できる工夫をしている。・部活動については、やめていく生徒も多く、また人数が少なくチームとして成立していないところも多く、全体として少しさみしい印象である。
③人づくりの基盤としての道徳性の育成	・人権HRを通した人権意識の高揚	3.6	3.3	3.9	・自身の進路実現に向けた講演会の中で、自分のことだけでなく、周りを大切にすることの重要性や環境を整えることの大切さなどを意識できるよう取り組みを行った。・SNSに関する人権教育・外部から講師の方を招き、教員研修を行った。・SNSが浸透した社会や、多様性が認められていくべき社会の中で、時代に応じた題材で人権HRを行い、未来を担う生徒に相応しい学習ができていると思う。・講演会などは実施しているが、各学年のHRでの取り組みはほとんどない。
④主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成	・家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	3.4	2.9	2.2	・週末課題や朝の小テストを実施し、家庭学習の習慣をつけるような取り組みを行った。一部の生徒は自ら勉学に励んでいる感じは見受けられるが、ほとんどの生徒がテスト前だけなど日常的に学習習慣が確立しているという印象はあまり受けない。・スタサブや週末課題を通して、生徒に家庭学習を促した。進路LHRを多く行うことで、生徒の進路意識は確実に高まっている。その成果として家庭学習時間が確保され、実力テストなどの成績は上がってきている。学習状況調査の結果から、家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は多くないことが分かる。・スタディサブリで課題配信を行ったり、数学の関数アプリを取り入れたり、家庭学習に活かせるようにしている。・若い教員や経験の浅い教員に対する指導がもっと必要である。
⑤進路希望の実現	・進路実現のためのカリキュラム設定	3.8	3.4	3.5	・探究活動を通して、自分の考えを表現する力を養っている。・進学にしろ就職にしろ、面接でしゃべることができる材料としての活動を実施することができている。
	・進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	3.8	3.4	3.7	・来年度の進路選択に向けた講演会を定期的実施した。・三者面談で、生徒個々人に応じた進路情報を提供した。・進路講演会など適切なタイミングで実施できているように感じる。
	・キャリア教育の推進	4.0	3.6	3.7	・講演会の実施などキャリア教育を推進させようという動きが見える。・進路HRやキャリアガイダンスなどの実施。・大学見学の実施、進路研究の時間確保などキャリア教育の機会を持つことができた。・受験や就職試験に応じた講座の選択が可能であり、生徒の進路選択に寄り添ったカリキュラムとなっている。・進路ガイダンス等で幅広い進路情報を提供し、3者面談で個々に応じた情報を提供し、進路を検討するために話し合いが行われている。・目標とする進路を決定する前に、検定取得等の、進路実現に有利となる情報を提供していきたい。・三者面談では日頃の小テストの結果や課題の提出状況、模試など、幅広く生徒の情報を提供している。
⑥教職員の資質の向上	・授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	4.0	3.9	3.8	・ICTを取り入れて分かりやすい授業になるように工夫する姿が見られる。・系列に合わせて、授業進度を変え、使用するプリント類もレベルを変えるなど、対策を行った。・ICTなどを使った授業を実施されている先生が多い印象である。私も含めてではあるが、生徒たちに効果的な使い方をこれからも模索していく必要はあると考える。・クラスごとに表現を変えてみるなど、伝わりやすさについて工夫している。・他教科とのグループ研究授業・研究授業や郊外研修を通して、分かりやすい授業となるような活動を行った。・常に授業を振り返り、より良い展開ができるよう研究を続けている。・問題を解く時間や解説の時間をとり、ときには生徒がほかの生徒に説明をする機会をつくるなどして、生徒が個人で考える活動をしやすいように工夫がされている。
⑦開かれた学校づくり	・家庭への連絡及び情報の積極的提供	4.2	3.9	4.2	・コロナ禍が和らいできて、地域の行事やイベントが再開されるようになってきたところで、ボランティアに参加したり、探究活動として参加したりすることができるようになってきた。・地域の行事に参加することで、地域の方からいい評価をいただいている。・コロナ関連の規制が緩和され次第、地域の方々と行事も改めて行えると思う。・銀谷祭りや探究活動を通して、地域の方との交流を持た・地域の行事に自分自身も積極的に参加することができた。
	・地域との連携を図った行事の実施	4.4	3.6	3.4	・家庭連絡は密に行い、保護者との情報共有をできるだけ多く行った。クラスで何かあった際はまめに連絡するようになっている。・悪いことだけではなく良いことも伝えている。・はなまる連絡帳等を活用し、お知らせや行事ごとを周知できているように感じる。また、ケーブルテレビなども来校されたりと地域へも発信することができている。・HP、はなまる連絡帳による情報提供ができている。個々の家庭へ、メールリストを用いて学校での活動やホームページの更新などを公表したり、探究活動を通じて地域と密接に連携をとっている。
⑧安全安心な学校生活	・校内の環境整備の適切な実施	4.0	3.8	3.7	・教室などの美化に努め、異常がないか分かりやすい状態に保たれている。・校内の環境美化に気を配り、生徒の美化意識を高めるための指導をすることができた。・床や黒板が破損しているなど基本的なメンテナンスに不足を感じる。・安全衛生委員会等において、校内の環境整備について話し合い改善している。
	・防災や生徒の安全への配慮	3.7	3.8	3.7	・校内Wi-Fiなどの整備や機械警備等で、学習環境や防犯への取り組みは細かくできていると感じる。・避難経路の確認を新年度の早期の時期に行っている。
	・生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	4.1	3.9	3.9	・定期的に教育相談を実施している。・養護教諭を中心に生徒への状況把握をいただき、適宜情報共有できているように感じる。・定期的ないじめアンケートの実施・生徒の異変に気づいた場合は学年団で共有し、チームで解決するようになっている。・学年通信などの発行回数が少なく、担任任せになってしまった。・生徒の人間関係を良好にするための学年レクリエーションの企画を年に数回持つことができた。いじめアンケートによるいじめの有無の確認だけでなく、生徒から相談しやすい雰囲気づくりが行われている。・生徒とのコミュニケーションをできるだけ多くとり、定期的な面談が必要な生徒については、毎週面談を行った。
⑨働きがいのある学校づくり	・ワーク・ライフ・バランスや働きがいのある職場づくり	3.9	3.5	3.3	・教職員が互いの仕事をカバーし合うことで、急な休暇でも対応できている。・定時退勤日やノ一部活デー、学校閉庁日などによってプライベートな時間が確保できている。・探究活動や進路実現のためのイベントなどで、今年度は働き甲斐のある職場だったと感じている。・教頭先生や周りの先生が、早く帰れる時は帰るように声をかけてくれる。・無駄な作業が多い。教員間のコミュニケーションが多く、困ったことがあっても相談しやすい。そのおかげで仕事でのストレスが私生活に影響を及ぼすことがない。休日の趣味の時間を大切に、ストレス解消することで仕事も楽しくできた。家庭と仕事の両立を目指しやすい雰囲気である。・職員間での連携がとりやすく、ストレスを感じにくい。